

1. まちプロジェクト(まちプロ)とは

まちプロジェクトとは、学生と地域が連携して地域を活性化することを目的とした、学生主体のまちづくり活動である。活動の中心となる実行委員会は神戸大学建築学専攻の学生により構成され、普段接点の少ない「地域」と「学生」の間をつなぐ架け橋となることを目指している。

2. 発足のきっかけ、拡大の歴史

活動が発足したのは2007年。神戸大学建築学専攻の学生を中心とする、52名の学生で組織を設立した。「学生の取り組む設計は紙面上の提案でしかない。実際に自分が生み出した空間で人を笑顔にしたい。」という想いから、「まちづくり」というには未完成だが、共に「ものづくり」を楽しみながら交流するためのイベント『まちTゆうえんち』を半年という短期間で企画し、開催した。

現在、まちプロジェクト実行委員会は、大学院生の実行委員と学部生のスタッフから構成される。スタッフとして活動に参加した学部生が、活動の意義や想いを引き継ぎ、次年度の実行委員となり、活動を継続させている。

3. どういう思いでやってきたか

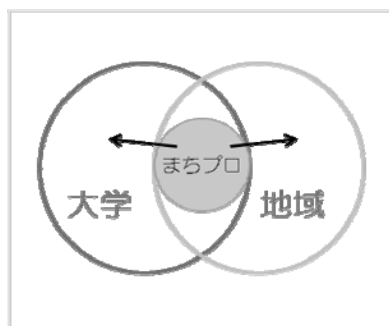
まちづくりで最も重要なことは「活動を継続させる」ということであると考えている。組織を引き継いでいくことと、それ以上に、まちに私たちの存在を認められることを意識して活動を継続させてきた。年々、地域の方との関係性が濃くなり、活動がまちに根付いてきていると感じている。

4. 活動の中で気づいたこと

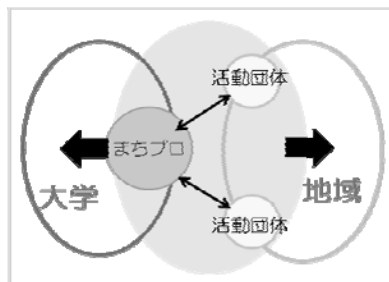
活動を継続させていくためには、地域の方と give & take の関係を築くことが必要である。まちプロジェクトが、地域の「便利屋」にならないよう、さらに、地域の思いをまちプロジェクトがしっかり受け止めて活動するよう、give & take のつり合いは保たなければいけない。

5. 今後に向けて

活動発足時、まちプロジェクトが「学生」と「地域」の架け橋となることを目標としていた。しかし、活動を進める中で、地域と学生は、それぞれ簡単に「地域」「学生」とわけて表すことができないことに気がついた。「地域」には様々な地域活動団体がある。その活動団体とまちプロジェクトが連携することによって、「地域」に対して、また、「学生」に対して発信していく新しい関係性をつくっていくことが私たちまちプロジェクトの役割ではないか。



まちプロの概念図(発足当時の目標)



これからまちプロがすべきこと

■ まちTゆうえんち' 10 ー知る、創る、参加する、好きになるー

日時：2010年9月11・12日 場所：六甲道南公園

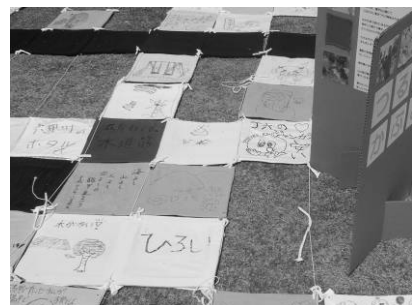
「いらなくなったTシャツ」を地域から回収し、それを用いて、ものづくりワークショップ(ミサングやシュシュづくり)、ゲーム(的あてなど)、Tシャツをすだれ状に連ねて吊るす「Tシャツすだれ」など、公園全体をTシャツで彩る空間展示を行った。

2010年度のイベントコンセプトは「もっと灘を好きになる」とした。また、幅広い年齢層の方に参加してもらうことも活動の目標とした。

メイン企画は「みんなの灘マップ」。4月からイベント当日までに、地域イベントなどで、Tシャツでつくったボードに「灘の好きなところ」を書いてもらった。好きなところを書く中で、「改めて灘のいいところを考える」ことができ、その展示は、灘のいいところを発信する大きなマップとなった。ゲームとは違い、大人でも参加しやすい企画で、幅広い年齢層の方に参加していただけたことは大きな収穫である。インパクトの強い「みんなの灘マップ」はイベントで遊んでくれた子ども達だけではなく、偶然通りがかった地域の方にも強く印象を残した。



まちTゆうえんちの様子



Tシャツで作ったボード

■ タントちょうちん祭りのお手伝い

2008年度に開催したイベントの趣旨に賛同頂いたことを機に、タントの会(ウェルブ六甲道1番街)とは2009年度から協力体制をとり活動している。2010年8月には共催イベントとして、「ちょうちん祭り」を行った。数回の共同会議を設け、「まちTゆうえんち」のプレイベントの位置づけで、Tシャツを使って作ったゲームを楽しんでもらった。



タントちょうちん祭りの様子

■ 成徳ふれあいマルシェへの参加

イベント開催・告知やなどに協力(take)して頂いたり、活動をする上で助言を頂いたり、地域の方をご紹介頂いたりしたことがきっかけとなり、地域活動団体が主催する活動に、「若い力(=労働力や活気)」を提供(give)した。

成徳マルシェでは、六甲の「地産」を紹介する出店のお手伝いを通し、様々な人と交流した。地域の方との交流や助け合いが、次の give & take につながっていく。



成徳マルシェ